平成21年度研究ステーション研究成果報告書

※学科・専攻を超えた、或いは研究室の枠を超えた複数のメンバーによる組織的な研究活動について記載してください

1．研究ステーション名　Social Informatics（社会情報学）研究ステーション
代表者名　　太田敏澄

2．平成20年度の研究の特筆すべき成果

（1）企業内 SNS プロジェクトの実施

本研究ステーションが共催し，第 20 回横幹技術フォーラム（2009 年 6 月 3 日）を開催した．

1）テーマは，「SNS が切り拓くバリアフリー・コミュニケーション―企業内 SNS 最先端の活用事例―」である．なお，主催は，（特定非営利活動法人）横断型基幹科学技術研究団体連合，および横断型基幹科学推進協議会である．

2）このフォーラムでは，「企業内 SNS」プロジェクトの調査研究の成果を発表した．企業における SNS 導入事例の4社による報告と，パネルディスカッションを行った．

（2）「Emergency Broadband Access Network using Low Altitude Platform Station for Disaster Relief in Indonesia」プロジェクトの実施

APT/HRD の公募プロジェクトで，2008 年 12 月 3 日に採択されたプロジェクトである．主としてインドネシアの PT Telekomunikasi Indonesia R&D Center と共同で実施し，2009 年 6 月 21 日－25 日の間，インドネシアのバンドンで実証実験を行った．

（3）第 16 回の社会情報システム学シンポジウムの開催

第 16 回社会情報システム学シンポジウムを，平成 22 年1月 22 日に開催し，特別講演として，小室裕一氏（財団法人地方自治情報センターLASDEC）理事長）より，「電子自治体の進路」と題する講演を戴いた．また，公募による一般セッション講演では，20 件の研究発表を行い，参加者は 64 名であった．なお，プログラムは，
http://www.ohta.is.uec.ac.jp/ISS/iss16-program.pdf
に示した通りである．

3．平成20年度の研究成果の公表実績（主催した研究会、研究成果の発信状況等）

（1）企業内 SNS プロジェクトの実施

1）太田敏澄，岡田勇，山本仁志，諏訪博彦，共通プロジェクトA：「企業内SNS」報告書，横断型基幹科学技術推進協議会，2009/05.

2）横幹技術協議会，横幹連合，電気通信大学 Social Informatics（社会情報学）研究ステーション，SNSが切り拓くバリアフリー・コミュニケーション－企業内SNS最先端の活用事例－，第 20 回横幹フォーラム講演論文集，2009/06.

3）太田敏澄，諏訪博彦，組織コミュニケーションのグランズウエル-企業内 SNS によるコトつくり-，横断型基幹科学技術研究団体連合第3回横幹連合コンファレンス，2009/12.

（2）「Emergency Broadband Access Network using Low Altitude Platform Station for Disaster Relief in

Indonesia」プロジェクトの実施

以下の報告書を作成し，APT に報告することとした.

Hariyo Santoso, Emergency Broadband Access Network using Low Altitude Platform Station for Disaster Relief in Indonesia, Bandung, 2009/06.

（3）第 16 回の社会情報システム学シンポジウムの開催

1）第 16 回社会情報システム学シンポジウム学術講演論文集（ISSN:1882-9473）を刊行した.

2）同学術講演論文集に採録されている論文の抄録は，独立行政法人科学技術振興機構のデータベース JDreamⅡの JSTPlus に収録されている.

4．外部資金の獲得状況

（1）プロジェクト「企業内 SNS」につき，横断型基幹科学技術推進協議会より共通プロジェクトＡとして，平成 19 年度から継続して，研究助成を受けた.

（2）「Emergency Broadband Access Network using Low Altitude Platform Station for Disaster Relief in Indonesia」プロジェクトにつき，APT/HRD の公募プロジェクトとして，2008 年 12 月 3 日に採択され，2009 年度にかけて実施した.

5．今後の研究発展（外部への発信，外部資金獲得計画を含む）

（1）APT/HRD の平成 22 年度公募プロジェクトへの応募を準備中である.

（2）第 17 回社会情報システム学シンポジウムを平成 23 年 1 月 21 日（予定）に開催し，同学術講演論文集（ISSN:1882-9473）を刊行する予定である.

（3）その他に，文部科学省競争的資金，JST，共同研究費，および受託研究費等の獲得を検討中である.

6．代表的なピアレビュー論文発表、学会プレナリ、招待講演発表、特許出願、受賞等

<u>代表的なピアレビュー論文発表</u>

Andri Qiantori, Agung Budi Sutiono, Hadi Hariyanto, Hirohiko Suwa, Toshizumi Ohta, An Emergency Medical Communications System by Low Altitude Platform at the Early Stages of a Natural Disaster in Indonesia，J Med Syst，Online Publishued (DOI 10.1007/s10916-010-9444-9)，2010/03.

加藤菜美絵，小川祐樹，諏訪博彦，太田敏澄，企業内 SNS 導入における有効性に関する調査研究，日本社会情報学会学会誌，21/1, 19-32, 2009/09.

小川祐樹，諏訪博彦，山本仁志，岡田勇，太田敏澄，動的なトピック分類に基づく Novelty を考慮した推薦アルゴリズムの提案，情報処理学会論文誌（ジャーナル），50/6, 1636-1648, 2009/06.

Agung Budi Sutiono, Andri Qiantori, Samudra Prasetio, Hariyo Santoso, Hirohiko Suwa, Toshizumi Ohta, Taufik Hasan, Tri Wahyu Murni, Designing an Emergency Medical Information System for the Early Stages of Disasters in Developing Countries: The Human Interface Advantage, Simplicity and Efficiency, Journal of Medical Systems, Online Publishued（DOI:10.1007/s10916-009-9280-y），2009/04.

国際会議プロシーディングスなど

Masakazu Kanbe, Shuichiro Yamamoto, Toshizumi Ohta , A Proposal of TIE Model for Communication in Software Development process, The 3rd International Workshop on Knowledge Collaboration in Software Development (KCSD2009), 100-111, 2009/11.

Ken Maruyama, Eiichi Umehara, Hirohiko Suwa, Toshizumi Ohta, Is Stock BBS Content Correlated with the Stock Market?: A Japanese Case, Proceedings of the 2009 IEEE International Conference on Systems, Man, and Cybernetics, 4746-4751, 2009/10.

招待講演発表

太田敏澄, 諏訪博彦, 組織コミュニケーションのグランズウエル-企業内 SNS によるコトつくり-, 横断型基幹科学技術研究団体連合第3回横幹連合コンファレンス, 2009/12.

Toshizumi Ohta, Age of Social Media: Society Driven Approach to ICT, e-Indonesia Initiatives, 2009/06.

太田敏澄, 諏訪博彦, 共通プロジェクトA「企業内SNS」の調査結果報告, 第 20 回横幹技術フォーラム, 横断型基幹科学技術推進協議会, 横断型基幹科学技術関連研究団体連合, 2009/06.

以上